

【研修会報告】

令和5年度 第2回 在宅医療・介護関係者研修会を開催しました

主催：諫早市在宅医療・介護連携支援センター かけはしいさはや

共催：諫早在宅ケアサークル

『諫早市の ACP の取り組み』

～住み慣れた地域で自分らしく、いつまでもいきいきと暮らしていくために～

講師：新野純子 課長 林田優二 主任

令和5年10月23日 19時～20時

参加者：66人(会場31人 WEB35人)

諫早市地域包括ケア推進課のご協力を得て、ハイブリッド形式で研修会を開催しました。

新野課長から、「諫早市における地域包括ケアシステムの構築状況」について、「在宅医療・介護連携推進事業」、「認知症対策推進事業」や「介護予防・日常生活支援推進事業」の主な取り組み状況について説明を頂きました。

林田主任からは、「諫早市の ACP の取り組み」について、これまで市民や専門職に実施したアンケート調査結果の報告や ACP の冊子『いつか来る自分の最期を考えてみませんか?』を、参加者に自分事として記載してもらい、実践に向けた研修会でした。



参加者の感想(一部抜粋)

- ・ ACPについてはいつもどの場面で、どのタイミングで行ったら良いのか不安になります。この研修を受けて、実際自分も記載して少し感触がつかめたように感じました。
- ・ 自身の最後の過ごし方を考えたときに、残された家族が同意してくれるかを確認していないことに気づきました。利用者様との関係性ができたときに小冊子を紹介することで話の糸口になると思います。
- ・ 日頃、「死」を意識して過ごしていません。しかし、誰にでもいつかは起こる事です。「死」に対しては、悲しいマイナスのイメージですが、身近な人と ACP を行う事で、より良く生きることが出来ると感じました。

次回は11月24日(金)に歯科医師の増山先生の研修会を開催予定です

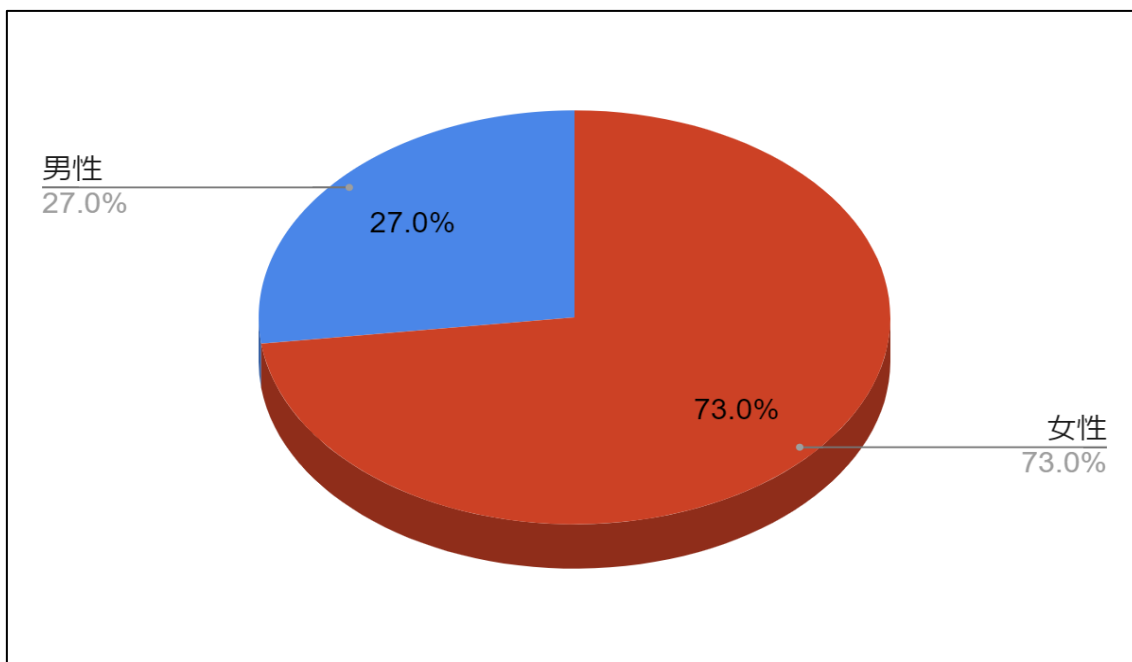
令和5年度 第2回在宅医療・介護関係者研修会

『諫早市のACPの取り組み』

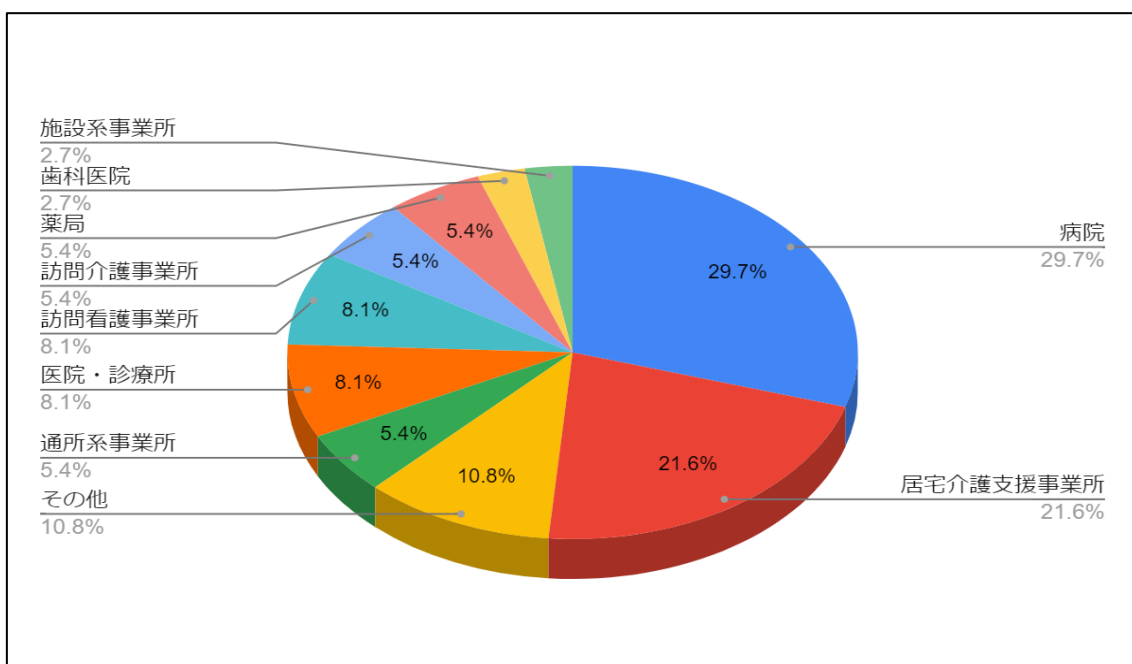


参加者： 66名 回答者数： 37名 (回収率 56%)

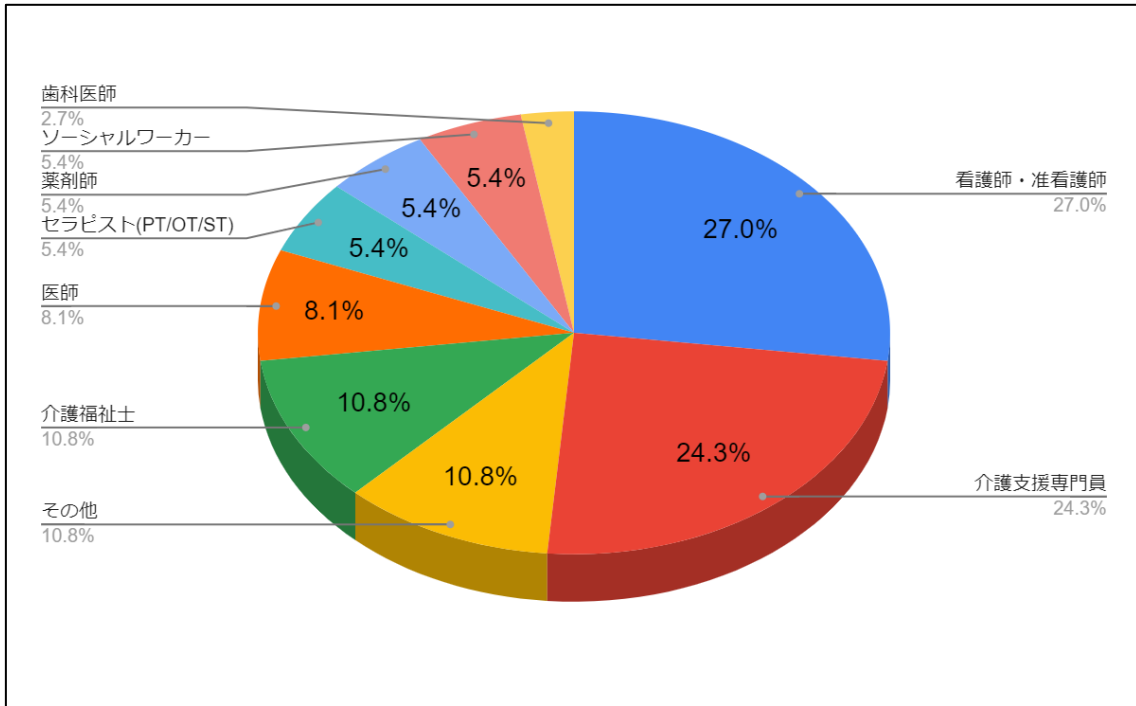
1. 性別 (男性 10名/女性 27名)



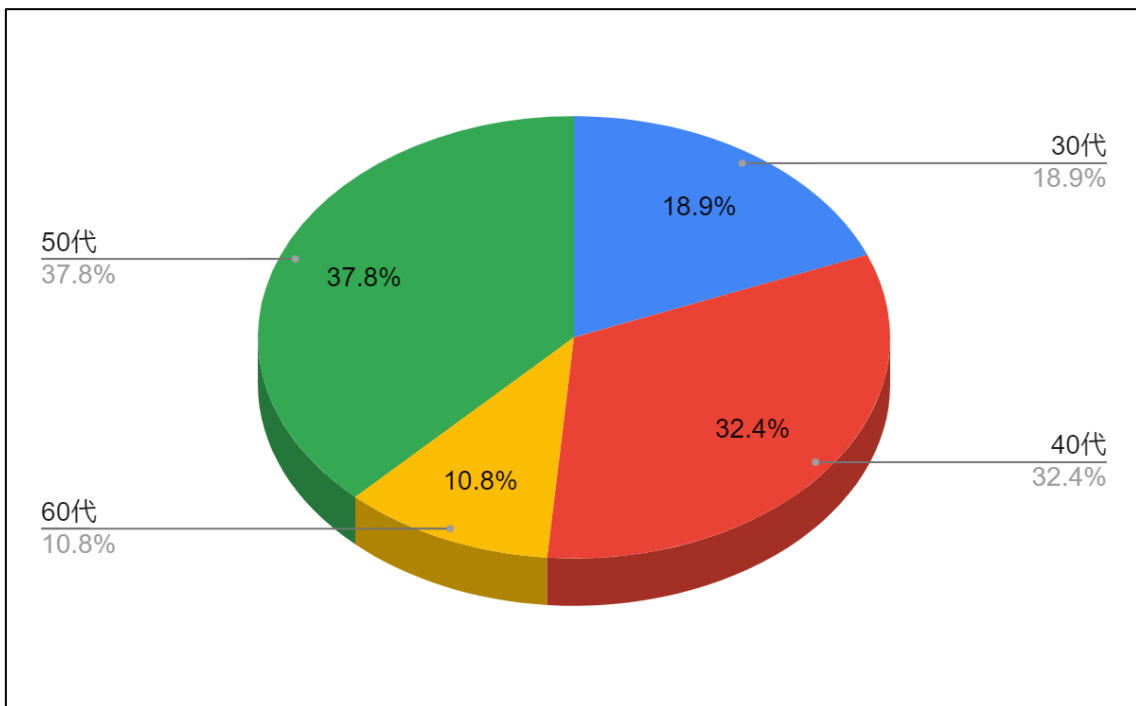
2. 所属



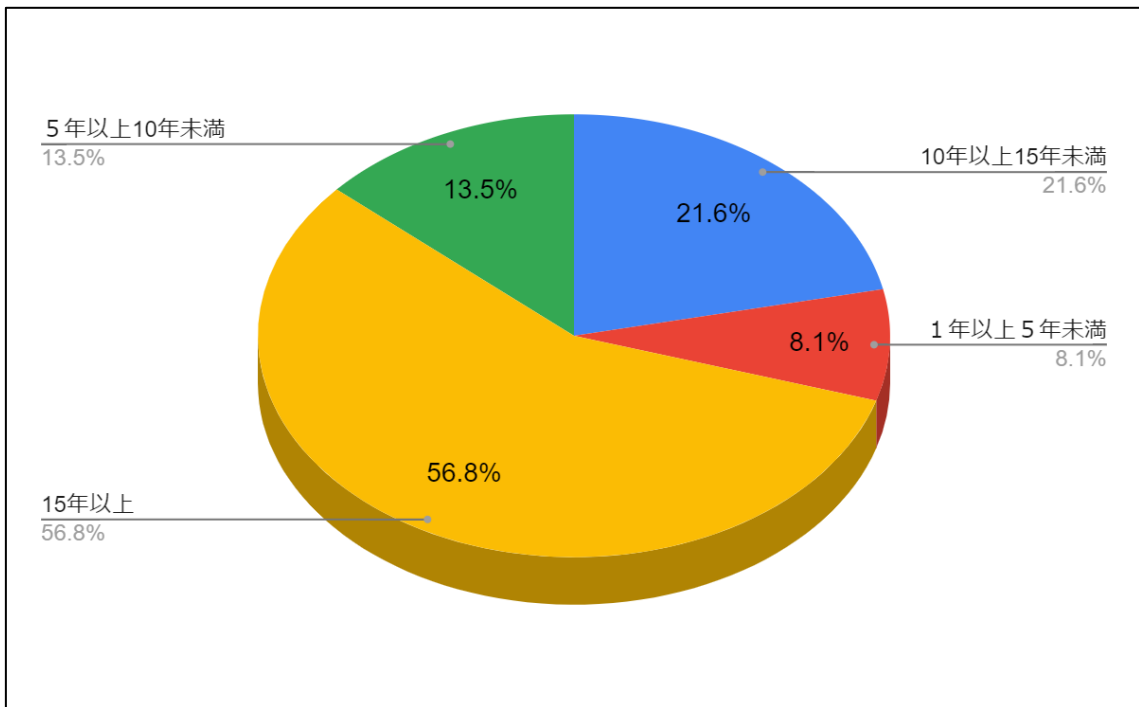
3. 職種



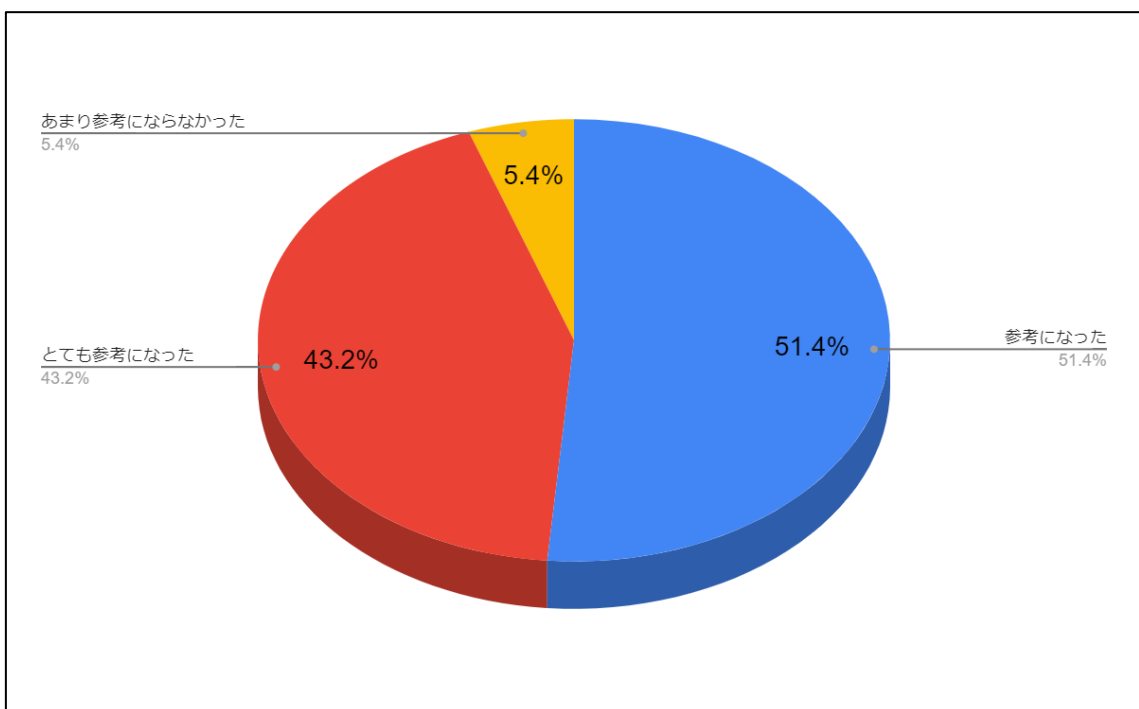
4. 年齢



5. 職場の経験年数



6. 本日の研修内容はいかがでしたか



7. 本日の研修の感想をご自由にお書きください。

- ・ 諫早市の現状を知る事ができた。ACP を実際自分でやってみて自分の人生を改めて考えて人に頼らないよう元気にいえないといけないと思った。振り返る事ができた。
- ・ マイクの音声が聞き取りづらかったです。
- ・ 勉強になりました
- ・ 高齢化についてもっと真剣に考えなければと思いました
- ・ ACP の参考になる質問を知ることができた。
- ・ 市として ACP をどういう目的で広めていきたいと思っているのか、数値的な目標や評価をどうしようと考えているのか、ACP リーフレットに記載された内容をどう介護医療にいかしていけるのか・活かせるような資源確保についてどう対応する方針なのかが聞けると良かったと思います。ACP を実際に書いてみましょうで時間を取って、皆でどう取り組んでいくかの具体的方策が見えませんでした。まずは知ることが第一歩と捉えるべきなのでしょうか、他の方の意見が気になります。別件ですが、認知症初期集中支援チームに何でも相談してくださいと言っていたので心強いです。資料を他で使えないのが残念ですが、他の方法で市民の方にも認知症初期集中支援チームの存在を知っていただきたいです。地域で困ってる方々はいっぱいいます。
- ・ 諫早市の現状（高齢化）や、地域包括ケアシステム構築のための事業について知らない事も多く、病院の事務員としても諫早市の市民の一人としても、とても勉強になりました。ありがとうございました。病院のスタッフにも教えてあげたいと思います。
- ・ 薬局業務の中で、在宅医療に関わることが増えてきており、在宅について相談をできる窓口が市町村レベルであることが分かり、今後の業務ならびに患者相談に活かしていけると感じた。仕事に活かしていこうと思います。音声がちょっと聞きづらかったです。
- ・ 諫早市の現状と ACP の取り組みについて理解できた。
- ・ 諫早市がどういうビジョンをもって、ACP に取り組んでいるのかが聞きたかった。ACP が大事、必要なのは理解できるが、諫早市が ACP に取り組む理由というのがよくわからなかった。

- ・自身の最後の過ごし方を考えたときに、残された家族が同意してくれるかを確認していないことに気づきました。利用者様との関係性ができたときに小冊子を紹介することで話の糸口になると思います。ありがとうございました。
- ・ ACP のきっかけに冊子を利用したい
- ・ ACP についてはいつもどの場面で、どのタイミングで行ったら良いのか不安になります。この研修を受けて、実際自分も記載して少し感触がつかめたように感じました。ありがとうございました。昨日質問ができなかったのですが、ACP の冊子はどこに置いてあるのですか？教えてください。
- ・ 日頃、「死」を意識して過ごしていません。しかし、誰にでもいつかは起こる事です。「死」に対しては、悲しいマイナスのイメージですが、身近な人と ACP を行う事で、より良く生きることが出来ると感じました。ありがとうございました。
- ・ 私にとって仕事でも私生活でも ACP はとても身近なことです。介護のお仕事をしていると、ご利用様の最後の時にふれる事があります。いつも、これで良かったのかな？もっとこんな風にできたかもしれないと思うことばかりです。先を逝くご利用様も同じ思いなのかな？と考えることがあります。今日の研修を受けて ACP を行うことでそんな思いをほんの少しでも少なくすることができるのかなと思いました。沢山の方々が最後のその時まで、住み慣れた地域で生き生きと過ごせるために ACP への取り組みを広げていけたらと思いました。
- ・ 諫早の ACP の取り組みについてどういったことが行われているのか知ることができました。
- ・ 仕事で関わる ACP が必要な状況は、本人が判断できない状況で家族が決めなくてはならない状況が圧倒的に多いです。自分のこととして考えた場合でも、一方的に、親に「どうするか決めといてくれ」「ACP ノートを書いてくれ」というのではなく、若い頃から「自分ならどうしたい」「どうしてそう考えるのか」という話を家族間でしておくことが重要だと思いました。
- ・ 各行政の取り組みの違いを知ることができ、とても参考になりました。参加させていただき、ありがとうございました。
- ・ 諫早市の状況、ACP の必要性がよく感じられた。
- ・ ACP は知っている程度でしたが、今回の研修を受け、今後の業務に取り入れていきたいと思いました。

- ・ 今回の研修に参加させて頂き、ACP に関して自身も考えることができました。担当の方には来月の訪問からでも、お一人お一人確認してみようと思います。ありがとうございました。諫早市の取り組み等、改めて ACP について確認できた。
- ・ 一般の方、医療従事者含め ACP の目的を理解することが重要と感じました。
- ・ ACP の考えを一般の人に浸透する方法（講演会以外の）をもっと打ち出してほしいです。
- ・ 諫早市の取り組み等、改めて ACP について確認できた。
- ・ どうして必要かはよくわかりました。書きこむ機会がなかなかはっきりしづらいのですが、担当者会議の際に、記入してもらうのはいいかもかもしれません。担当者会議は 1 回だけではないので、時々意思に変わりがないのかも聞きやすいと思います



8. 研修会の運営(テーマ・開催方法・日時等)に関するご意見・ご要望等ありましたらご記入ください。

- ・実際にあった症例報告がききたいです。
- ・時々音声途切れる事があった。他人の音声が紛れて聞こえない時がありました。次回、時間が合えば対面で聞きたいです。
- ・特にありません。
- ・最初、映像や音声が悪かったですね、音声は最後まで聞き取りにくかったと思います。勉強になりました、ありがとうございました！
- ・テーマ 認知症の方との接し方など、Web 研修だと参加しやすい
- ・来年3月までは準備期間4月以降は実施要件のBCPや認知症基礎研修の全員受講など今改めて確認すべきことの振り返りについての研修。
- ・以前も市長に参加してもらったように、市職員の参加も続けてもらいたいです。やはり介護医療間だけで話し合っても、行政の協力が不可欠だと思うからです。普段の業務でも、行政の対応に介護関係者や家族とともに心折れそうになることが多々あります。友好的な協力体制につながれば良いかと思います。
- ・とても、興味深い内容でした。集合型で研修に参加するのが一番だとは思いますが、WEBでも参加できて、助かりました。
- ・可能であれば、共通のテーマや、症例に対しての他職種からの意見や問題解決方法などディスカッションできる機会などあればありがたいなと思います。
- ・ハイブリッド形式だったので、参加しやすくて良かった。
- ・特にありませんが、看護学校の椅子はやや固く腰が痛かったです(私だけかもしれませんが)
- ・虐待や不適切ケア、メンタルコントロールなど